

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-181	17-032	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Relationship between alcohol drinking and arterial hypertension in indigenous people of the Mura ethnics, Brazil. ブラジル先住民族ムーラにおける飲酒と高血圧の関係		
<b>執筆者</b>		
Alaidistania Aparecida Ferreira, Zilmar Augusto Souza-Filho et al.		
<b>掲載誌</b>		
PLoS One. 2017 Aug 4;12(8):e0182352. doi: 10.1371/journal.pone.0182352.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
高血圧、AUDIT (飲酒習慣スクリーニング)	28777805	
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> ブラジル先住民族ムーラにおける飲酒と高血圧、高血圧の有病率とその関連因子を明らかにする。		
<b>方法：</b> ブラジルのアマゾンに住む年齢18歳以上の455人の先住民族ムーラを対象に横断研究を実施した。面接を行い、飲酒量は、飲酒習慣スクリーニングテスト(AUDIT)を用いて評価した。血圧は、三回測定し、最後の2回の測定の平均値を用いた。身体検査として、体重、身長、腹囲、首囲、生体インピーダンス、血糖値(キャピラリー測定)、中性脂肪とコレステロールを測定した。ステップワイズ法を用いた多重ロジスティック回帰分析により、関連因子について飲酒習慣のオッズ比(OR)と95%信頼区間(CI)を求めた。		
<b>結果：</b> 飲酒率は40.2%であった。飲酒者のうち高血圧は23.0%で非飲酒者のうち高血圧は29.0%であり、飲酒習慣と高血圧には統計的有意な関連を認めなかった。高血圧既往は、飲酒者で14.2%、非飲酒者は24.3%であり、高血圧既往者は飲酒をしないことが統計的に示された(p<0.009)。調整後のモデルで飲酒リスクの上昇を認めたのは、女性に対する男性(OR: 10.27, CI: 5.76-18.30)、非喫煙者に対する喫煙者(4.72, CI: 2.35-9.46)、都会に住む人に対する田舎に住む人(OR: 9.77, CI: 5.08-18.79)であった。一方、年齢(OR: 0.95, CI: 0.94±0.97)と脂質異常症既往歴なし(OR: 0.41, CI: 0.19-0.89)は飲酒リスクが低いことが示された。		
<b>結論：</b> ブラジル先住民族ムーラにおいて飲酒率は高かった。飲酒習慣は高血圧既往と関連を認めたが、調整後の解析では有意な関連を認めなかった。先住民族の生活習慣を変えることや都会に住むことは、先住民族の循環器疾患のリスクを上昇する可能性がある。それ故、健康政策は、先住民族に見合ったものを実行するべきである。		